

2024年 梅田に新たなイノベーション 創出拠点誕生

～うめきた2期のまちづくり～

大阪の都心に残された最後の一等地「うめきた」でグランフロント大阪等がまちびらきをしてから、約4年半。続く、うめきた2期のまちづくりがいよいよ具体的に進みだす。今号では、2期のまちびらきに向けた官民の連携によるイノベーション創出拠点の形成への取り組みを中心に紹介する。

うめきた2期の開発着手

2013年4月、うめきた先行開発区域(約7ha)に、グランフロント大阪などがまちびらきして以来、国内外から多くの人々が訪れ、連日にぎわいを見せている。まちづくりの中核機能として設置された知的創造拠点「ナレッジ・キャピタル」では、企業や大学、研究機関などの多様な組織が集積し、イノベーションの創出、起業家支援などが展開され、関西経済の活性化に大きく貢献している。

そうしたなか、24年夏ごろに予定されている約16haのうめきた2期(以下、2期)のまちびらきに向けたスケジュールが大阪市より発表された(表)。13年10月に実施した第1次コンペの優秀提案者20者を含む民間事業者を対象としたコンペを今年中に開始し、審査を経て18年の夏ごろまでに事業者を決定する予定である。2期は、関西の交通の結節点という機能に加え、関西国際空港と直結する新駅の設置により、アジアのゲートウェイとしての機能も強化され、世界からの人材や技術が集積・交流するまちとなることが期待されている。

現在2期のエリアでは、JR東海道線線地下化および新駅の設置に向けた工事、土地区画整備事業が行われている。また、16年10月より、まちづくりの

プロモーションなどを目的とした暫定利用事業として、「うめきたガーデン」などのイベントが数多く開催されており、にぎわいの創出につながっている。

〈表 まちびらきまでの主なスケジュール〉

※8/3吉村大阪市長発表内容

- ・2017年秋 … 主な開発条件の提示
- ・2017年冬(年内) … 募集開始(募集要領等の配布)
- ・2018年春～夏 … 提案受付、審査、事業者決定
- ・2024年夏ごろ … 先行まちびらき

※梅田新駅開業は、2023年の予定



工事が進むうめきた2期

写真提供：都市再生機構

『みどり』と『イノベーション』の融合拠点をめざして

2期の開発については、当会を含め行政、民間、経済団体、学識者で構成する大阪駅周辺地域部会に

〈図 うめきた2期「みどり」を活用したイノベーションのイメージ〉

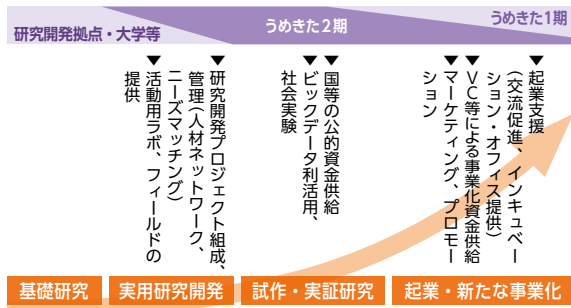


において、『みどり』と『イノベーション』の融合拠点を目標とすることが15年3月に決められ、その実現に向けた取り組みが進められている。

敷地内に設けられる約8ha(阪神甲子園球場約2個分)の広大な「みどり」は、世界の人々をひきつける比類なき魅力を備えたものをめざす。このまち全体を包む「みどり」が、大阪を世界水準の都市空間を持つ国際都市に引き上げるトリガーとなる。そして、世界中から資本や優秀な人材等を集積させ、創造的・革新的な変化(イノベーション)を生み出す。単にまちの中の公園や緑地としてではなく、そこを訪れるさまざまな来街者が参加・体験し、楽しみながら商品開発や評価に参画できる世界で唯一のフィールドを実現するものである(図)。

イノベーションの創出に向けては、「ライフデザイン・イノベーション」をテーマに掲げ、1期での活動を生かしながら、関西一円の研究開発拠点・大学等の新技術を、多様な人材に「橋渡し」する機能を実現し、新技術を基に事業化をはかるプロジェクトチームを組成していく。そのため、2期に大学・研究機関、企業などが参画する「イノベーションプラットフォーム」を構築し、研究開発から実用化まで切れ目のない支援を実施していく。そのプラットフォームの中心的な役割を果たす総合コーディネート機関の設置も予定されている。

〈うめきた2期の中核機能のイメージ〉



総合コーディネート機関設立に向けて

総合コーディネート機関の組織体制や活動内容の検討などを目的に、本年6月20日に関係連の関総一郎専務理事を代表とする「うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会(以下、推進協議会)」を設立した。推進協議会は、当会、大商、大阪府、大阪市、都市再生機構、大阪科学技術センター(事務局)で構成しており、コンペにより民間開発事業者が決定した後は、その事業者も参画する予定である。また、アドバイザーとして、関係省庁、支援機関、学識経験者なども参画している。

8月2日には、約250人の参加を得て、設立記念シンポジウムを開催した。大阪大学の西尾章治郎総長は基調講演にて、社会や産業構造が複雑化していくなか、産学連携のあり方も変化していくと述べた上で、「多くの市民が集う2期では、『産官学民』が一体となった『共創活動』が実現される場をつくりあげていくべきである」と訴えた。また、経済産業省の佐藤文一大臣官房審議官(産業技術環境局担当)、文部科学省の坂本修一科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長らを迎えて行われたパネルディスカッションでは、各パネラーが2期開発への期待を語った。

推進協議会の事業内容

推進協議会では、イノベーション創出の仕組み作りのため、①総合コーディネート機関の体制および活動内容の検討、進出企業の誘致活動の実施、②まちびらきまでの間のイノベーション活動の機運醸成に向けた取り組みなどを実施していく。今年度は、特に後者に重点を置き、以下のような各種イベント、セミナー等を計画している。

◆うめきたの未来国際シンポジウム(仮)

2017年12月開催予定

海外のベンチャーエコシステムの事例をもとに、イノベーションを継続的に創出していくエコシステムを組み込むためには、どのような機能・まちづくりが必要かを議論

◆KANSAIイノベーションフェスタ2018(仮)

2018年2月開催予定

2期のコンセプトである「関西の拠点の技術・人に繋がる」や「最先端技術に触れ、体験することで、来街者と企業等が協業する」を先行体験できるような展示会を実施

*国際イノベーション会議「HackOsaka」と共催

◆ビッグデータ利活用と個人情報管理に関するセミナー

2018年2月開催予定

うめきたに集まる多様な人々のバイタルデータをはじめとするビッグデータの取得と利活用や、その際に必要となる個人情報の管理方法等の習得を目的としたセミナー

※計画中の内容のため、変更になる可能性があります。

当会は、大阪駅周辺地域部会および推進協議会の構成員として関係機関と連携し、まちづくりの目標である『みどり』と『イノベーション』の融合拠点の実現に向けた取り組みを進めていく。

(産業部 松田拓)